A 167　高齢者の生活環境と食生活についての統合的研究

大妻女大家政　○前川啓子　長嶺晋吉　八倉巻和子　吹野洋子
伊藤令子　飯島利津子　小澤真紀子

目的　わが国は急速に高齢化社会に向っている。単に福祉行政に頼るのではなく各自が経済的に自立し積極的社会参加のできる,いわゆる「健康で働ける要因」を探ることを目的とする。

方法　調査地は長寿村である漁村(千葉県)と山村(栃木県)の両地域を選んだ。今回は研究調査の才1段階として,健康で日常生活を維持し,社会参加の可能な,中高齢者の実態を調べ,生活環境と食生活等の諸要因を明らかにし,才2段階の研究の手がかりとする。

○現地踏査:調査実施前に現地に行き,役場・保健所・学校・民族館・研究所等,そして地元有識者・組合関係者から関係文献・資料の提供を受け,各種の情報を収集した。

○調査票の作成:調査項目は46項目である。　○調査対象:千葉県館山市,安房郡の2地区(A),栃木県那須郡の4地区(B)の60歳以上の男女。Aは106人,Bは89人を調査対象とした。

○調査の実態:調査は老人会のリーダー,衛生指導員,保健婦,高校教員などの協力を得て,面接聞きとりを行った。

結果　A地域の特徴は,漁業地域で男は漁師,女は海女として年間を通して労働している者が多い。B地域は農業地域であるが現在は兼業農家で,かつ共働きの家庭が多く,そのため日曜農業となっている。A地域の高齢者は独居か夫婦のみの家庭が多く家族数が少ない。またB地域は家族との同居が多い。平均体位は身長・体重共にA地域はB地域より高い。漁村の食生活は高たん白質であることが原因であろう。持病が無く,薬を常時服用しないと答えた健康とみられる人は,A地域58.5%,B地域48.3%である等。今後,才2段階では調査対象の中から,年齢別に健康人を選び特に食生活を深く追求してゆきたい。